

月影

平成十九年三月一日（第十七号）

浄土宗西山禅林寺派

常林院

汝ら知るべし

人の世は

四苦八苦のみ



釈尊

「人の世には様々な悩みがあるが、突き詰めれば四苦八苦である。」と、お釈迦様はおっしゃっています。

四苦とは、「生・老・病・死」。八苦とは、四苦に、「愛別離苦・怨憎会苦・求不得苦・五蘊盛苦」の四つの苦を加えたものです。

一、生……生まれる苦しみ。生まれることは、いつか必ず死ぬことが運命づけられているという苦しみ。

- 二、老……年老いていく苦しみ。
 - 三、病……病気になる苦しみ。
 - 四、死……死ぬ苦しみ。
 - 五、愛別離苦……親や子と死別するように、愛する者と別れる苦しみ。
 - 六、怨憎会苦……愛別離苦とは逆に、憎しみあっている者と会わねばならない苦しみ。
 - 七、求不得苦……欲しい物が手に入らない苦しみ。
 - 八、五蘊盛苦……心身すべての苦しみ。
- 前の七苦を総括した苦しみ。
- この四苦八苦は、人間として生きていく限り、誰一人、逃れることはできません。逃れようとすればするほど、苦しみはさらに大きなものになります。
- お釈迦様はこう続けておられます。
- 「この現実を『あるがまま』に受け入れること。生まれたいものは、いつかは死ななければならない、苦しいことではあるが、それは思い通りにはならないことだと、思い知ることが知恵である。」と。



春の彼岸会のお知らせ

日時 平成十九年三月二十一日(水) 祝日

午後一時 彼岸会法要

塔婆回向

午後二時 お説教

説教師安養寺住職

澤田教英 師

場所 常林院本堂

※ご先祖様の塔婆回向の供養を

ご希望の方は、当日までに

ご連絡下さい。



今回のお説教は、安養寺の尼僧さん、澤田教英師にお話しをしていただきます。当寺には幾度もお越しいただいているので、皆様よくご存知のことと思います。

気さくなお人柄で、やさしく分かりやすくお話しをさ

れます。どうぞ皆様お誘い合わせの上、ご参詣されますようお願い致します。

仏事と作法

しょうこう

お焼香

かぐわしい匂いをくゆらすお香は、悪臭を除き、身心を清らかにするという意味があります。また、私たちの思いを香りに託し、故人に届けて供養するという意味もあります。

お焼香の回数についてよく尋ねられることがあります。はっきりとした回数は定められていませんが、基本は三回です。仏・法・僧の三宝を敬う。また、貪り・おろかさ・怒りの三毒煩惱を消す、といった意味付けをすることができます。さんどくほんのう

しかし、法要や葬儀などで参列者が多い場合は、一回、または二回とするのがよいと思われれます。

お線香の本数についても、はっきりとした本数は定められていませんが、お焼香と同様に基本は三本です。

しかし、中陰の間は一本。また、長いお線香を立てるときなどは一本がよいと思われれます。

※これは各宗派、また地域などによって違いがあります。

